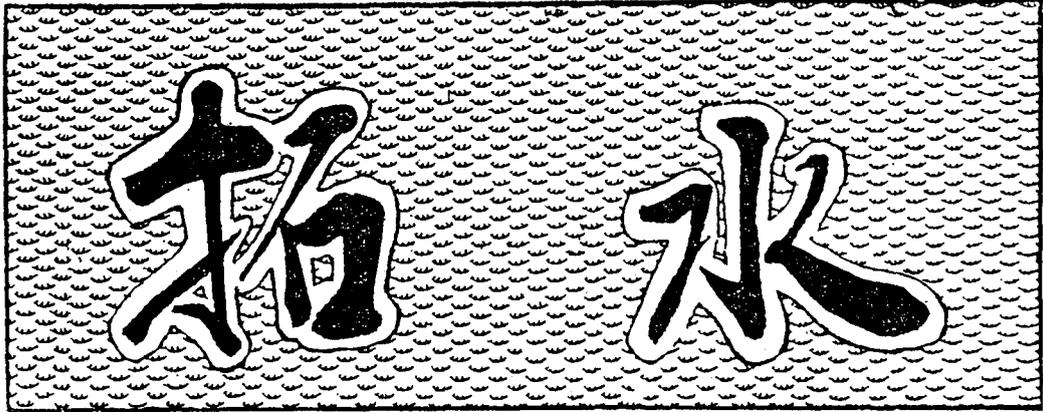


第廿七号昭和卅三年十一月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

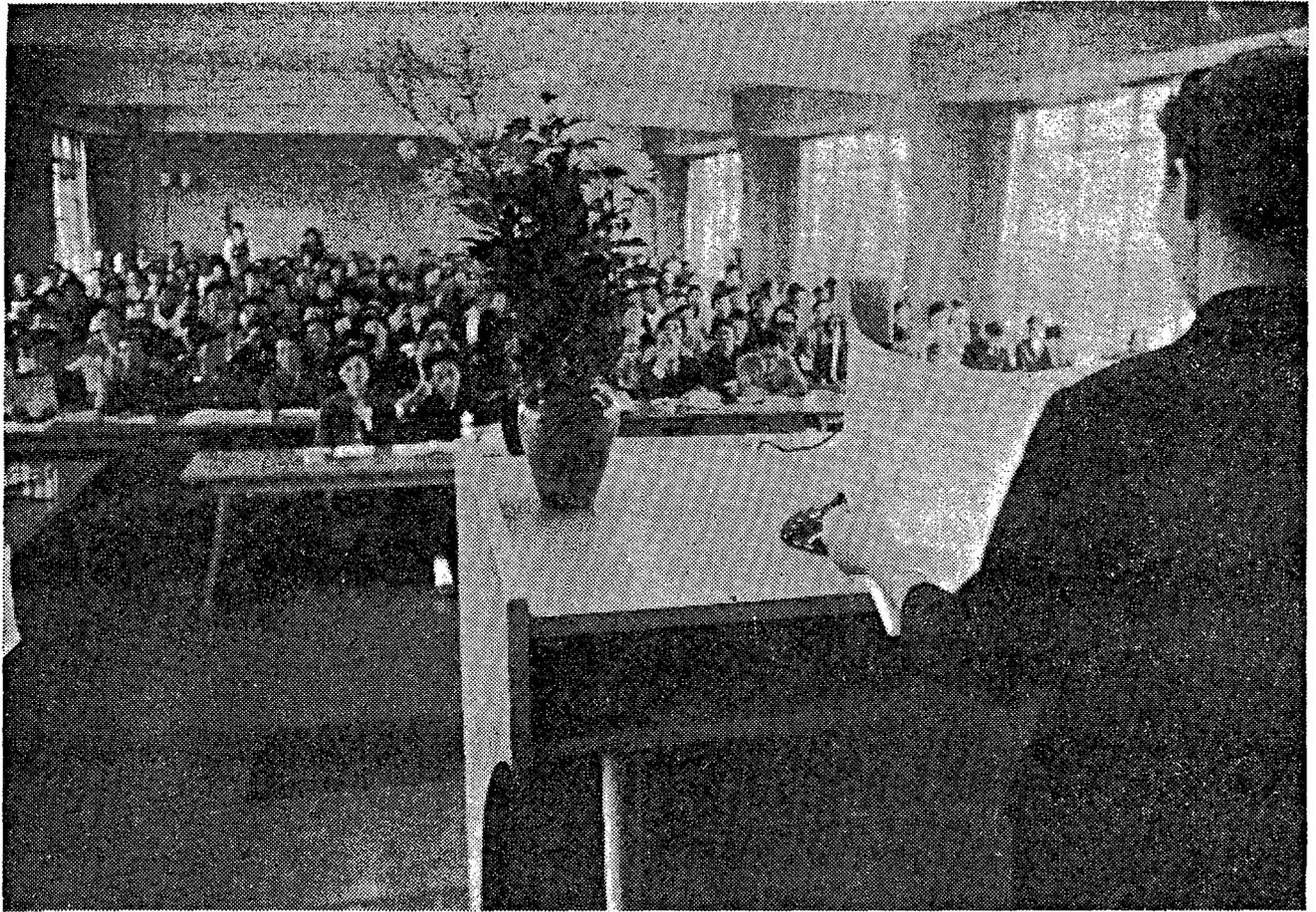


十一月



(第三回兵庫県漁業協同組合婦人部大会の写真)

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会



宣 言

兵庫漁業協同組合婦人部大会も本大会をもって三回を数えます。この間私共婦人部は漁家経済の向上に懸命に努力いたして参りましたが、本大会を契機といたしまして、私共漁村婦人の動きと団結が如何に漁民生活に大きな影響を及ぼしているかについて再認識をいたしますとともに、今後とも尙一層私共の生活の改善と、漁業協同組合の充実に協力するよう、私共婦人部とともに力を合せて最善をつくしたいと存じます。右宣言いたします。

昭和三十三年十月二十二日

第三回兵庫県漁業協同組合
婦人部大会

目 次

第三回県下婦人部大会発表内容	
①婦人部のあり方について	2
須磨浦漁協婦人部	
②岩谷採集について	4
余部漁協婦人部	
③私達婦人部のなやみ	5
浅野浦漁協婦人部	
④貯金と日用品の共同購入について	6
室津漁協婦人部	
⑤結婚の簡素化について	7
居組漁協婦人部	
⑥拾円貯金について	9
那家浦漁協婦人部	
⑦全国漁協婦人部協議会に参加して	10
柴山漁協婦人部	
米国における生鮮食料品の消費包装	12
森 沢 基 吉	
マダコの資源補充機構	15
水試 川 越 敬 一	
冷却水温度について	18
水試 杉 本 技 師	
漁民厚生共済について	20
全水共兵庫県事務所	
漁調委だより	21
水産課 調 整 係	
昭和三十三年八月中の海面漁獲の概要	22
水産課 調 整 係	

第三回兵庫県漁業協同組合婦人部大会は、去る十月二十二日午前十時より水産会館において、秋雨のはげしい悪天候にもかかわらず、兵庫県知事を始め来賓多数の御臨席を賜わり、関係者約四〇〇名が参集のもとに開催されました。

県下婦人部大会も回を追ってその活況を呈し、全国の漁業協同組合婦人部連合会並に関係団体より多くの御祝電をいただく等、本大会も盛会裡に午後二時過ぎ閉会致しました。

以下本大会の発表議題の内容についてお知らせ致します。

婦人部のあり方について

須磨浦漁協組婦人部

沿岸漁の疲弊が叫ばれ出してから既に久しいのでありますが、その的確な対象もいままに、その疲弊のしわ寄せが皆私達漁家の婦人達の双肩に直接に押し寄せて、世帯のやりくりにぎりぎりの線まで押しやられて居ると言ふのが、かくす事の出来ない悲しい現実であります。

昔から私達漁民の生活と云えば「汚く働いてきれいに暮らす」と申しますが、ボロをもって夜となく昼となく真つ黒になつて働いても食物は割合せい沢に、親戚や近所とのつ

き合、或はお宮やお寺への寄進、そうしたものには出し惜しみをしない事を誇りとして来たものでございます。

処が今日では都会周辺の漁家、特に私達須磨のような高級住宅地であり観光地である土地に住う者は、漁民と雖も昔のままの生活様式は最早許れなくなつたのであります。

一例を上げますと、子供を学校に通わせるとその同級生は会社の重役、高級官公吏、裕福な商家などの子供さん達で、通学の藁草履は皮靴

となり風呂敷の書物包は手提げ鞆になり服装はお嬢さんお坊ちゃんバリツとしたものになっていきます。吾が子に余り卑下させたくない親心から、つい無理算段をしてでも、或る程度の事はさせてやりたいのが人情でございます。また私達の町内ではテレビのアンテナが林のように立ち並、電気洗濯機掃除機はほとんどの家庭にもあり、電気冷蔵庫を備えた家庭も急速にふえつつあります。

この様に周囲の人達が整った服装で子達を通学させ家庭の電化やその文化生活を進めて居ますのに、私達漁民の家庭がそれについてゆけないというのは、沿岸漁家の収入が今日では他の産業従事者の収入水準より遙かに劣つて居ると言う事実に基づきますので、この根本的な点が解決されない限り、いくらあがいても困ても致し方のない事であるかと思ひます、しかし私はここで漁家のこの苦しい境遇を一つの惨めな宿命として諦めてはならないと思ふ者であります。

漁家経済を一般家庭の水準にまで引き上げるには、何と言つても国や官公庁の総合的な御援助と、御指導とに依り全く下積みとなつて居る原始産業、沿岸漁業の改善を願う事

と、その裏側から私達漁業婦人がお互に手をたずさえて奮起するよりほかにないと思ひます。

そこで私は今日の、いやこれから婦人部はどうあるべきかと言う点について私の考えて居ります一端を申し述べて見たいと思ふので御座居ります。

世間にはさまざまな婦人団体が結成されています。地域的な婦人会もあれば神社やお寺を中心にしたもの、日赤奉仕団のように社会奉仕を目的としたもの、或はいろいろな趣味の婦人団体から母の会など種々雑多の婦人団体がありますが、私達の漁業婦人部はそうした他の婦人会とは大きく立場を異にすると思ふのであります。船にたとえて申しますと他の婦人会は、平おんな航海の乗客であり、この機会に船や海の智識を互に深めようとする者や、たかだか、自分達の船室を共同で掃除し愉快に航海をしようとする程度のもので致しますと、私達漁業婦人部は社会の荒浪と言う時化の、浸水の甚だしい船の乗組員にも当るものであります。まして、皆さんで部署を決め一人の力をゆるめる者もなく必死になつて浸水を防ぎ浸水を換え出さなければ今にも沈没しそうな航海であり、男

達は機関を守り、操舵に、無線室に、懸命になって、浸水防止にまで手が廻らないので、我々婦人乗組員は一人残らず沈没を免れるために必死になって居る姿が、私達婦人部の切実な立場であると思います。この事は常に私達が心に刻んで居なければならぬ点であると思います。

現在私達の婦人部は第一回婦人部大会の開かれまして昭和二十一年十月二十六日の三日前、二十三日に五三名をもって県当局の御指導と、漁業協同組合の御援助とに依つてめでたく発会を見たのであります。それより貯金運動、共同購買事業、社会見学、講演会、講習会等を行いまし、相当な成果を挙げて居ります。この様な事業が出来ますのも婦人部が出来たお蔭であり、一人一人では到底出来ない事ばかりであります。苦しい世帯の中から一日僅か一〇円二〇円の貯蓄でも個人では思うばかりで、なかなか実行出来るものではありません。第一はづみがつきません。つい忘れてたりしがちですが、これが何十人何百人となりますと多少無理をしても掛けて行くようになり半年一年とたつ内には大きな金額になって参ります。共同購買にしても、見学、講演会にしても同じ事で

一人一人では全く出来ない事が、大勢の力によって始めて出来ますので、必要品を安く買い、その差格を貯金して行くと言う風に、知らず知らずに貯金も殖え又色々な智識が出来それが何かのお役に立つて行きますので大要結構な事と思つています。

こうした形の上に現われてゆく事業も今後益々力を注いで発展させてゆかねばなりません。今日の婦人部のあり方としては見せるための事業であつてはならない。外観だけの婦人部に終つてはならないと存じますので、こうした事業に力を注いで行く半面、私は精神面の啓発と言う事も重点的に取り上げてお互に進んで行きたいと思つて居ります。

それには各単協婦人部毎に毎月定期的「反省会」と言うような会を催しまして、全員が出席して一ヶ月間行つて来たさまざまな事を話し合い打ち明け合い、悪かった点、失敗した点、心のわだかまりなど十分に反省する様にしてゆきたい、漁に出る夫を気持よく笑顔で送り不漁で帰つた時程一層夫をいたわる事の出来る様に修養を皆んなで重ねて行きたいと思つて居ります。

もしこれが「こんなもうけで食べ

てゆけますか、今日はずんと漁をして来て呉れないと晩の米代もあらへん」と言う様に仏頂面で沖に送り出すと、その夫は、子供は、必らず漁の最中にも妻の仏頂面、母のぐちが氣に掛つて万足な漁は出来ないでしょうし、「今日又たつたこれだけ

か、隣の誰々さんも向いの誰々さんもたくさん漁をしように」と家で家内にぼやかれると男はついやけになって勝手にしやがれと酒の一杯もよけい飲むようになり勝ちだと思つて居ります。これは男の方が、女よりも漁負けを悔しがりが心がいらいらして居るのでから妻のぐちを聞くとやけ切れないので、そんな時「今日は運が悪かつたんや、道具は私が運ぶから風呂へ早よ行つて来なさい」と言つて銚子の一本もよけいにつけて労わる様にすれば男と言うものは嬉しくなり、妻にすまん明日は頑張ろうと元氣が出るものです。

こうした点にまでいろいろと打ち明けて話しを合つて各自の致らぬ点を反省して改めて行くようにしたいと思つて居ります。反省会を通じて改めてゆき自分の家さえよければ、と言う世間狭い考え方を捨て「皆さんと共に幸福を」との考え方に持つて行く事が急務であろうかと存じます。

そうして家庭を明るく朗らかにしよう、どんなに苦しい世帯の中でも心掛けてゆかねばなりません、又その苦境の打開の第一歩であろうと思つて居ります。

特に今日漁村に欠けている点は子弟の教育の問題でないかと思つて居ります。貧困な私達の家庭として子供達に教育をつけたい気持はあつても一家の生計の上から実際問題として、それが出来なかつたのであります。が、「漁師に教育はいらない」という考え方で、只さえ社会の下積みになりがちな漁民が、一層他の人々から劣等階級視される事にならないかと怖れるのであります。それはどうして教育をつけてゆくか、先づ義務教育も満足に学校にやらせず、新制中学を出るのを待ち兼ねて男の子は漁に、女の子は工場にという風なのを、子供の将来のために、歯を喰いしばつても辛棒して行くように各家庭で何とか工夫をして行くように仕向けたいと思つて居ります。その学資の点は私達婦人部によって共同の貯蓄や共同の内職によって育英資金的なものを、もっともっと広く普及して漁民の子弟全般に融通し合うように致し度いと思つて居ります。

そうして全漁業者の子供達にもせめて高等学校の教育をつけなければと思うので御座居ます。

しかし私達は学校教育の全部ではないと言う点は銘記すべきで、母として姉として家庭の日頃のしつけこそ学校教育にも増して人間を作る上に大切なものである事を知らねばなりません。西洋の俚言に「子は親の言う通りにはせず、する通りにする」と言われていますが、実際その通りであると思えますので、母であり姉である私達は先づ自分自身の日常の

行いが子に及ぼす影響の大きさを考えなければならぬと思うので御座居ます。

この外婦人部の共同内職によって家庭経済の手助けと婦人部の資金とを稼ぐべく、考案を持っています。今日は時間がありますので、次の機会に譲ることと致しまして、本日はこれで失礼したいと思います。私は最後に漁家の婦女よ集れそして強く結束して目標に向かって歩調を揃えましょうと叫ぶものであります。

岩海苔採集について

余部漁協組婦人部

私達の処は。香住町余部区と申しまして、東洋一に高さを誇る有名な余部鉄橋のある処で御座居ます。漁協には余部大敷がありまして数年以前にはづい分大漁が続きましたので、魚の運搬には、皆肩の上で背負って運び、非常に困難を致して居りましたが、現在では浜から馱までケーブルが運搬作業に当り、非常に便利よ

く存じて居ります。婦人部と致しましては、未だ日も浅く之れと言った程の事業も致して居りませんが、日用品の購買事業、軍手、袋編、炭負等致して居ります。が、いづれも皆微々たるもので、何か好い事業はないものかと婦人部一同相談致しました結果、幸い岩海苔のかかる地形に恵まれて居りますので、

海苔つみを実践してはと言う事に意見が一致しました。早速漁業協同組合にお願いに上り、承諾を得まして、次の風番には、婦人部が海苔つみをすると言う事になりました。海苔つみと申しまして一年中を通じて寒い冬だけしか採れません、雪の多い但馬の国では非常に困難な事でございます。海苔をつみましてから次の風まで、風から風の間が長ければ長い程、海苔の掛りがよろしゅう御座居ますが、逆に短かければ短い程、掛りが悪うございます。

私達は思わずよく荒れて、沢山掛ります様にと、祈らずには居られませんでした。それから幾日か経った或日、明日は愈々海苔つみが出来そうな風ですので日数を数えて見ますと、五、六日しか経っていません、こんな事では折角婦人部事業の風番であります。部員の意見がまちまちで御座居ましたが、結局漁業協同組合の方に海苔のかかり状態を双眼鏡で見せて頂きました。処、「黒々と掛って居る」との事で早速使いを廻して夜の明けのを待ち、お宮様の前の広場に集合し、「貴女達はどこそこの島、貴女達は舟の島に行つて下さい」とそれぞれ役割を決め、五人の船頭さんに頼んで分乗して頂き、私

達はかちと申しまして歩いて行くので御座居ますが、其処は千疊敷と申しまして、曇が千疊も敷けると言う大広場で御座居ます。各自持参致しましたいかきと帆立貝とで一生涯命かかのですがこの場合腰を下していは余り寄って来ませんので、腰を上げてかきますとよく寄って参ります。貝のよく当る部分に布を巻いて置きますと手の痛みも違います。岩の上を余程気を付けて歩かないとツルツルよくすべつて「痛いっ」と大きな声を上げてしかめ面をされる方も少くは御座居ません。

昨年は県から三〇万円の補助を戴きましてジャンコ岩にセメントをして頂き沢山海苔が掛つて村中大変喜んで居ります。施工方法と致しましては、請負業者を選定し入札をしました。七月一日より着手し、約四十五日間位で三三九坪の処に、コンクリート造成面をしたのですが果費補助六割、地元負担四割で御座居ました。私達婦人部も共に協力し、足場のすべる処にはかどをたててすべらない様にし、暑さも忘れ、出乗上った時は嬉しいものでした。今年ほどただけ海苔が掛るか希望を寄せたものでした。お蔭様で従来の三倍以上の収穫になり、採取するのに短時

間て済む様になったので一石二鳥で有るとお互に喜び合いました。又今年は考えまして帆立貝は、ちびったり、砕けて粉が出来ますので、ブリキの貝に致しました、ジャンコ岩は幾らかいても音だけで絶体採れませんが、まだまだ沢山の岩があります、又実現して頂きます日を楽しみに待って居ります、お天氣の好い日には、乾きますので、手の掌で揉んで採ったり致して居ります。又灰等をかけて採る場合もあります、舟の島と松が後の島には海苔が違って何とも言えない程黒々と黒光がしているので御座居ます。千疊敷には誰でも行ってしまえば採るのですが、松が後の島には村でも五、六人の方達で、上から下をのぞいて見ただけでも足がぶるぶるふるふる絶壁で普通ではとても降りられません。岩角を持って足場を決めそろそろすべらない様に降ります。雪降りの時にはとても駄目です。前の風の時には舟の島には採っていないので期待をかけて一同浜に引上げました。

団体の力とは大きなもので今更乍ら沢山あったとお互に喜び合ったので御座居ます。

五班に分れて各班責任を以て海苔付をしましたが先づ、バケツに水八

分目位入れて水洗いして、いかきにゆすり上げ、ハンボと申しまして、洗濯だらけより長い小判形になったものに水をはって、漁業協同組合から頂きました横二六縦四二纏のわくを入れ、その上にすどもと申しまして海苔を付けるこもを乗せ一番上に下と同じわくを入れて薄からず濃からず、すみずみまで指先であげ、わくをはずして水気を切り日の照った処で乾かすのですが好天氣であれば一日で美しく仕上がりますが、雪や雨の降っているときは、二、三日はかかります。皆緊張しました為か、一枚の不良品もなく、一枚くくりにして青いテープでくり、漁業協同組合に出したのですが一枚二二円に買って頂き、二、五〇〇枚の代金五万余円を即金で頂き皆が互に協力した汗の賜であると非常に喜び合ったので御座居ます。全部事業資金として貯金しています。又来年も好い風の時に海苔つみを致しましょうと固く約束をして居ります。

果水産課からも余部の海苔が一番よいとほめて頂き部員一同大喜び致しました。そして海苔には希望を寄せて居るのであります。

今日は婦人部が一日海苔つみ致し

ました体験を発表させて頂きました、之を以ちまして私達の海苔つみ

の事業発表とさせて頂きます。

私達婦人部のなやみ

浅野浦漁協組婦人部

私共婦人部の母体である浅野浦漁業協同組合は、淡路西浦のそれも相当北に寄りました斗之内浜部落にあります。この部落は漁家九〇戸、商工業六〇戸、その他七〇戸の計二二〇戸でなり立っており、組合員八五名が動力漁船九〇隻を持ちまして、年間一四万貫金額にして五、二〇〇万円を水揚しておりますが、漁業の内容はイカナゴの込瀬網漁業が大部分を占めて、打瀬網、たこ壺、一本釣等の漁業がこれに続いております。従いまして漁家一戸当りの漁業収入は約三五万円ということになります。これからのいろいろの経費を差引しますと生活費に充てられる金額は約二〇万円ということになります。これで平均六人の漁家が生活しておりますため、毎日の生活が精いっぱいだというのが大部分の漁家

の事情であります。その上魚が段々と減ってゆくという状態にある為、私共漁家の台所を預るものとし、ても今後の生活には非常な不安と淋しさを感ず、婦人の立場からこの漁家の苦しさを打破るためには何とか努力をしなければと思っていたのでございます。

たまたま果当局や組合の役員さん方の御指導もあって昭和三十年の六月に、部員七五名をもって私共の浅野浦漁業協同組合婦人部が誕生したのでございます。そして先づ取り上げましたのは、

一、できるだけ集会を多くして私共の問題を話し合ひましょうということ。

二、漁家に貯金の意欲をもって貰うために私共で一〇円貯金を続けましょうということ。

三、私共の共同購入で日用品を少しでも安く家庭に入るようにしようということ。

等でありましたが、その結果は役員になられた方々の御苦労にもかかわらず、現在のようになり好い成績を収めるには至っておりません。

私も部長を勤めさせていただきましてすでに二期目でありますが、先輩の方達の事業をそのままに引継いでゆくのがやっとなであり、主婦としてのさやかな願いをいざこれを実行してゆこうとすると、それがどんなにむづかしいものであるかということをしみじみと感じた二年間でございました。しかしこんな弱いことではとても私達の願いとす、漁家経済の立直しは出来ないとはい部員の方々にもおはかりして、昨年末から日掛頼母子講の廃止に力を注いでおります。皆様の涙でも同じことがあるのかも知れませんが、私共の涙では昔から漁家に必要な資金はほとんど日掛の頼母子に依存するといふしきたりがあり、この制度のためにただでさえ少い漁家の収入がどれだけ犠牲にされたかはとも想像できない程でございます。幸い頼母子のなやみから立ち上ろうとする私共の願いは組合や系統機関でも暖かくお

受けいただきました。現在では機関換装や漁船の新造資金等が頼母子に依存しないということ、水揚代金からの天引償還ということの二つを条件にして、信漁連から組合を通じて貸していただいている状況でございます。件数は一件にすぎず金額も一五〇万円ではあります。私共

はこのような道を拓いて下さった方々にお報いするためにも、是非私達の部落から頼母子講をなくしようとして現在一生懸命努力している次第でございます。このような状態ではあります。現在の事業のあらましを申し上げますが、毎年の総額先づ一〇万円貯金ですが、毎年総額二五万円位までは貯まるものの、冬分になると漁業の収入がうんと減って油代も不自由になります。もう少しまとまった金額になるまではと思っております。つい年末になると払戻されてしまつて、油屋さんにこれを支払つてしまつてという現況です。どんなに苦しい時でも一〇万円貯金を続けるということ、年末にこの貯金が油代に消えてしまわないようにするためにどうしたらよいだろうか。これが貯金についての私共のなやみです。

日用品の取扱は毎年三〇万円程で

すが、部落が小さい割合に商人が多く、しかもその多くが漁業者の家庭にも親戚関係になっております。ために、婦人部で品物を扱つても、義理人情面から商店の品を利用しなければならぬ人が相当数あることが、私共のなやみになっております。

又副業につきましては、当初四つ編をしてましたがこれは相当熟練した人でも一日五〇円程にしかならぬため打ち切りまして、現在ではイカナゴ釜揚げに使う木箱の組立に重点をおいていますが、之は注文さえあれば素人でも一日に一〇〇円位にはなり、その点大変希望者も多いのですが、相手がイカナゴであるためその期間が僅かに四月と五月の二カ月だけであるため、せめてこのような副業が五カ月位続いてくれればと考えている次第です。

私達婦人の手で出来ないはずはな

いと思つて手をつけたことでも、長い間の漁村のしきたりはなかなかふみ越えられないものです。そうかといつて今私達の取組んでいるような事柄はみな明るい漁村を打ち建ててゆくには必要なことばかりです。私共の浜だけで解決できないことも同じ立場のものと、大勢の婦人達が話し合えば新しく開ける道も多いことと思ひますし、私共婦人だけでは前進できないことも、男の人達の御協力が得られればほとんどん成果のあがることもきつと数あるものと思ひます。

県当局の皆さん方もこのような気持と立場をよく御了承下さいまして、なお一層の御支援を下さるようお願いしてまことに拙ない発表でございますが、浅野浦漁協婦人部の発表を終らせていただきます。

貯金と日用品の共同購入について

室津漁協組婦人部

私達婦人部は設立日も浅く、これという成績もあげて居りませぬ、皆様の前に発表するようなことも御座

居ませんのでお断り申上げた様な次第ですが、何でもよいからと組合よりの申し渡しがありましたので、結

成後約一カ年半に渡る足跡とでも申しましよるか経過を報告させて頂き

昭和三十一年私達は県当局並に漁業協同組合より婦人部の結成をすすめられて居りましたが、実は婦人部とは一体どんなことをするのかもわからなかつた訳で御座居ます。

第一回婦人部大会に参加させて頂きまして各婦人部の代表の方々の実績発表並に活動状況をきかせて頂きまして私達も一日も早く婦人部を結成せなければならぬと思ふ希望と、果して婦人部を結成しても他の婦人部のように活発な活動が出来るだろうかという不安な気持ちを抱いて帰ってまいりました。

いよいよ昭和三十三年県当局並に漁業協同組合の指導のもとに設立総会を開催して役員の撰出、内規の設定、事業計画の承認をいたしました。第一歩を歩み出しました。

私達は先づ貯蓄の奨励と、日用品の共同購入に手を掛けました。貯金は一日十円の日掛貯金で各区別に選出された役員の方々が雨の日も風の日も毎日部員の家を廻っていただきまして十円ずつ集めて居ります。現在一〇〇万円余り貯金されて居ります。

日用品の共同購入につきましては内海漁連のあっせんによりまして購入致しました。当初市販より廉価なため成績もよかつたのですが、すぐ商人が値下げするとともに、同じ種類の石鹼でも三コ以上買えば更に五円値引きするという具合で遂に対抗できず中止してしまいました。

そこで中止の原因を考えてみますと、

- 1、隣接の姫路が日用品の卸相場が他の都市より安いこと。
- 2、せまい土地柄と、会員は過去に商店と何等かのつながりがあるので同じ値段では商店で買うこととなる。

3、婦人部が日用品の共同購入を始めたために市価が下つたのだから婦人部をもちたてねば、という組合意識にとぼしい。

以上申述べましたが、もう一度よく研究して日用品の共同購入を行いたいと思つて居ります。

私達は婦人部を結成するまでは漁業協同組合のことは何一つわかりませんでしたし、又関心も御座居ませんでした。その後組合のあり方があらましわかつて参りますにつれ私達が組合員の家族として、又婦人部員として組合の発展のため側面から協

力せねばならないことが非常に多いのを知つて驚かされました。やりたいこと、やらねばならぬことが多くさんありますがさて実行するとなるとどれもこれもむづかしい

ものばかりで弱つて居ります。皆さんの力強い体験談を拝聴し参考としてやって行きたいと思つて居ります。御指導と御鞭撻をお願い申上ります。

結婚の簡素化について

居組漁協組婦人部

私の村は、戸数三〇〇戸人口約一、五〇〇人その内漁家六割で土地は極めて狭く、したがって専業農家はなく経済的にも恵まれない所であり、私共の漁協婦人部が出来たのは昭和二十九年十一月で当時は婦人協力部という名称でした。

この婦人協力部も皆様の婦人部と同じ様な目的をもって仕事をやって居ります。貯金も購買事業もいろいろとやっていますが一番力を入れて考えているのが生活改善の事です、そうしてこの生活改善の内一番大きなしかも中々成功しにくい結婚簡素化の仕事でありまして、今私共が本組合の指導援助によりこのことに取り組んで居る次第であります。

幸いにも昭和三十年夏に新しい組合事務所が建築されました階上の間取りも式場に使える様に計画されて居りますし、又浜坂町が先年より国で推進されています。新農山漁村建設総合対策事業の指定になりましたので、その内生活改善事業の一つとしてこの事業を計画に入れて頂き農林省の要綱にもないこの事業が県の水産課長さんや課員の皆様方の大変な御理解と激励を得まして本省の特別指定を受けました。その施設の予算は、約二五万円ですの内国の補助は一二万円でありました。

花嫁衣裳二着、男子式服モーニング二着と和服一揃い、式用器具一揃い、折詰箱、長テーブル等一通り整

える事が出来ました。さてこの事業を押し進めて行くには組合長さんの指導方針もあり。

一、式は簡素でしかも厳粛にやる。

一、衣裳は組合で調達する。

一、調度品は必要の最少限度として

式の数日後に運ぶこと。

一、披露宴は極力時間と費用をかけるな。

一、諸事は簡素節約を図り、事情の許す限り当事者の新生活出発の第一歩に当り将来のため新婚旅行をやらせる。

という様な基本的な考え方を打建てました。

昔からこの行事はいろいろと問題があり、娘三人持てば家が潰れると言われながら派手に流れ易く仲々改められない事であり、その内でも吾々漁村が一番派手だと言われて居る様です、漁師は「宵越しの金は持たない」とか「漁があったら」という気風が強いせいでせうか。

結婚は一生に一度この親の考えに若い人が無批判に同調し大きな借金をしてまで見栄をはって、沢山の荷物を調べ何日間も飲めや誂へで大騒ぎをして、それで将来当事者が幸福であるとの保証にはならないと思います。

又結婚は一生一度の重大なことであり、この行事は本人中心に行われなければならないと思いますのに、式当日の如きは花嫁は見世物、花婿さんは手持無沙汰で居り所もないという様な事で本人等の幸福を考えるでなく只昔型の家のつながりとか世間体に見栄を張ってやっているだけではないでしょうか。この行事こそは本人等の将来や幸福のためにこれを主体として考えなければならぬ事です。従来は行き方を大いに反省し改善を加えなければならぬ事と思えます。

以上申上げました様な考え方で、施設をしてから約一年を経過いたしました。その成績は御多分に洩れず遺憾の点が多いのです。問題は、この思い切ったやっただ簡素化の反響であります、残念ながら未だ賛否両論というところ。何事も新しいことを初めるときはすべて満場一致は望めませんがいろいろの事情のため、部落会、部落婦人会等、部落全体の定めとしての協議を経ずしてやった事が封建思想の強い田舎で、しかも親達の娘や息子の門出を立派にしてやりたいという考へ方が、古い伝統を断ち切る事の出来ない事は遺憾な事ではありますが、又一方この趣

旨に双手を挙げて賛成し、尙事情により自宅に於て挙式する場合にも之に刺戟せられて、次々に相当改善せられつつある事実は、辛抱強くやれば必ず成功出来る明るい見通しもあるはれつつあり、心強く感じています。しかし私達もこの仕事が決して楽々と成功するという様な安易な考えではなく、準備期間中にも途中で、一、二度も心が挫けて投げかけた事もありますが、その度毎に気を取り直して部落婦人会、青年団等にも協議会を持ち、先進地の視察にも参りました。

その時播洲赤穂市の公民館長先生の強い信念で「施設さえして置けば何とかなる」とのお言葉を頂き、いよいよやる事に踏み切りました。開設時から今迄の成績としましては、衣裳や、器具の貸付は仲々成績は良いのですが、一番問題となるのは披露宴のことです、借衣裳は現在では一般の常識の様になっているので問題はありますが、改善の大目標である披露宴に問題が集中されている様です、式の時間は披露宴共に約三時間、料理は婦人部の料理講習会の経験を生かして、備付の折箱詰め、酒二合で一人前約三〇〇円程度、本人を新婚旅行に見送って約一

時間位でお開きという事が余り飽気ない様な感じらしく、又組合員以外の人、この施設利用に組合を開放して、何誰でも気易く使へる様になっているのに不拘らず、何となし気兼ねしているらしい事が活潑にならない原因の様です。

この様に施設後の成績は期待通り挙って居りませんが、新生活運動Ⅱ漁民の経済建直しのためにも、今後辛棒強く、是が非でも成し遂げなければならぬと固く誓っています。

以上簡単でしかも拙い発表でございますが、何卒今後共水産課長さんや水産課の皆様、其他県下同志の方々の御懇切な御指導と御支援をお願い致しまして発表を終わります。



拾円貯金について

郡家浦漁協組婦人部

郡家浦漁協婦人部は、漁村婦人の文化の向上と、漁家経済の自立を計り明るい漁村を建設することを婦人部発足の目的として、昭和三十一年三月六日、構成人員一〇名をもって発足し、その発足目的達成のために左記のような事業をしているのであります。

- 一、組合育成発展への協力
- 二、生活の改善
- 三、貯蓄の増強
- 四、組合購買事業の活用促進

以上の事業のうち貯蓄の増強に關し、先づ拾円貯金について申しますと、その動機及び目的は、婦人部発足の目的の一つである漁家経済の安定と言う、目標達成の手段として、又部員に貯金に対する関心を深めさせ、言わゆる漁民の「一切食い」と言う様な觀念を是正さす意味において、更に小さな金額でも多数の人がためやす実行する事によって相当な成果を上げることが出来ると言う事

を部員間に植えつけ、しかも家庭経済の危機に直面した時にはこうした貯蓄がいかに役立つか、と言う意味において、婦人部の主要な事業として始めたのであります。

そうした拾円貯金の経過について申しますと、昭和三十一年五月一日より一口拾円で日掛け貯金を開始しました。この貯金は一応二カ年満期として、一〇名の人が参加し、その内訳は、一口の人が九七名、二口の人が一一一名、三口の人が二名で合計一二五口でありました。

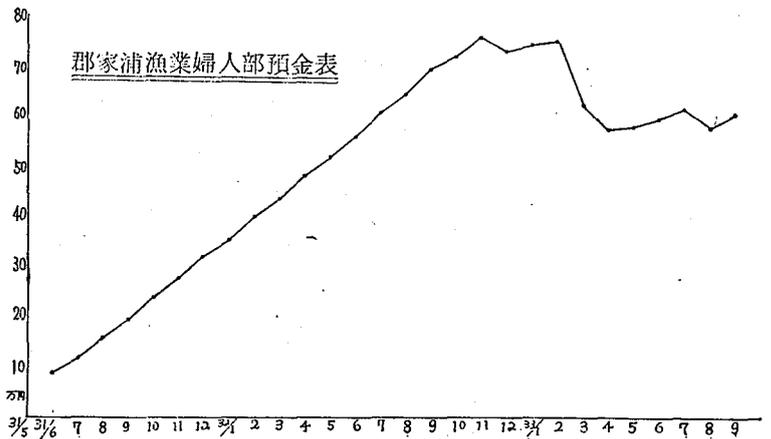
集金の方法としては、各支部員が順番制で集金して毎日漁業協同組合へ持参する方法をとり、貯金を始めて二カ月目より、利息の關係上、五万円程度まとまった金額のものは郵便局より引き出して、淡路信用金庫、神戸銀行、信漁連等へ定期預金として預け入れる事とし、一方貯金欲の生じた、一部の婦人等は内職(繩ぬい、包み皮作り、地曳網手つ

だい)によって得た収入等も、ないものと思つて余分に貯金する人も出てきました。

こうして順調に貯金を重ねて行くうちに無事に一年は経過しましたがこの頃になって二、三の人が貯金をやめたり、又やむを得ぬ事情のために引き出す人も出来、又思いがけぬ問題(と言うよりは実は私達全休の大きな落度ではあったのだが)が起つてきました。それは利子の問題であります。勿論このことは始めから解つていたことでありましたが、貯金額が一日わずか拾円であるため始めはその利子等について皆が問題にしていなかったのであるが、それが一年以上たつて来たこと、又五万円づつ集まるごとに定期預金にして来たため、予想以上の利子が生じ、そのためこの分配について非常に複雑な問題が起り、途中で貯金を引き出す人達があつて、預金期間がいろいろであるため今日に至つても未だその問題は解決されていないのであります。こうした問題が今後の貯金促進の上にも大きな障害となつているので、近い内に總會等を開いて早急に解決せねばならないと思つております。

こうした利子の問題を未解決のまま

郡家浦漁業婦人部預金表



ま別表の様な変化を示しつつ昭和三十三年十二月をむかえたが、この頃になると拾円貯金も始めてから一年半を経過しており、一人平均の預金高も六、八五二円となり、これは漁閑期の漁家婦人にとっては越年資金として相当役立つので引出す人が一、二、三名ありました。所がこれが発端となつて昭和三十三年度に入ると次から次へとこの貯金を引き出し、込瀬網の不漁がこれに拍車をかけ

て、多くの人々が貯金を引き出しはじめ、そのため引き出し額が多くなり、預金は定期にしている関係上、払戻しに困る様なこともありまし

た。
又こうして払戻しをする人の中には、自分の定期預金に入れて利子を見るような人もいたと言った状態で貯金高も目立って減少し、九月末には一人当り五、四一八円にまで降下

しましたが、しかし表で解る様に貯金の引き出しもすでに横ばい状態であるので、今後は利子の問題もはっきり解決し、又貯金が満期になったから全ての人が引き出してしまおうと言った様なことのない様部員間に申し合せること等によって一層貯金増加に向って努力したいと思っております。

全国漁協婦人部協議会に 参加して

柴山漁協組婦人部

未熟者乍ら第二回全国漁協婦人部

連合会大会に、本年度兵庫県代表として出席させて頂き、四日間の大会を無事終了致しまして昨朝神戸まで帰ってまいりました。兵庫県も北の端、但馬よりはるばる遠征致しまして毎日の強行軍にヘトヘトになって帰り、そのまま此の県大会に出席致しました事として、切角の大会の模様も取纏める時間も御座いませんで皆様には申訳も御座いせんが、許されます時間丈大要の報告をさせて

いただきます。

扱て、大会は本月の十七、八、九二十日の四日間に亘って東京九段の青年会館に於て行われ、北は北海道の端より南は九州鹿児島まで、選ばれました代表約一五〇名、それに、県の水産課、又信連関係の方々を含めて一八〇名が、参加致し、誠に意気さかんなものでございました。
先づ大会の第一日目は、順序に従いまして、御世話役たる全漁連の片柳会長様の御挨拶に引続き、来賓と

しての水産庁漁政部長の竹田様、農林中金の岡田様の御祝辞を頂き、次に講演に移りました。講師は賀川豊彦先生で、内容は、漁村の建直しは婦人の力にまつものである。又乱獲を戒しめ、魚族の繁殖を図るべきだ、とのお話しでございました。続いて農林部生活改善部長、山本松代先生より、「くらしの問題」についてのお話を伺いました。

私達の生活は健康か否か、曰く

- 1、充実に無駄はないか
 - 2、生活の為の道具、又資材は充分に生かされて使われているか
 - 3、私達の労働力に無駄はないか
 - 4、時間を有効につかっているか
- についていろいろと手近かな例を挙げての御懇切な御説明があり、要するに一日二十四時間の暮らしの中にこそ生活改善は有るので、必ずしも冠婚葬祭だけではない。行事だけに之を限ることに、間違いがあるとのお話でございました。
- 講演が終りつづいて分科会に移りました。分科会は、三分科に分れ、第一分科は「婦人部の立場と組織について」のテーマで、婦人部の立場はどうなっているか？ 婦人部の立場が弱いのは何故か？ 婦人部の立場を強くするにはどうしたらよい

か？ について討議致しました。私は第一分科に配せられましたでしたが少しその様子をお知らせ致しますと、各県代表の方には、矢張りその地方で、婦人として、重要ポストにある方が多く、地域婦人会長も兼ね尚市会議員をしていられる方々も見受けられ、福岡県よりは珍らしいケースとして女の組合長さんも見えました。が、誠にその討議たるや議長が指名に困る程、意見、質問が活発に行われました。扱て第一分科会のテーマ「婦人部の立場はどうなっているか」では地域婦人会、農協婦人部との関係について、いろいろと各地区より御発表があり、婦人部の立場が弱いのは、決して個々の婦人部が弱いのではないが、他団体と比べて、組織が弱い。他団体の様に全国協議会の組織がなく、又其の会長も生れていないため、一般より忘れられる原因となっている。又農村は指導者が多いが、漁村には尠いためとの意見に一致いたしました。尙この婦人部を強くする為には、全国組織を末端までもつこと、生活改善普及員の配置をもっと増して貰うこと、この程度より出発するべきであるとの結論に達しました。
又第二分科会のテーマは「生活改

- 善の進め方」で、
- 1、生活改善はどうなっているか
 - 2、生活改善がうまく行っていないのはなぜか
 - 3、これを実践して行くためにはどうしたらよいか

の問題が採上げられ、結局は組織をもたねばならない、又非常に大きな問題であるから、今少し私達の創意と工夫が必要だ。生活様式ともならみ合せた上で、その意識を昂めて行く様に努力すべきだとの結論を得ました。

次に第三分科会のテーマは「漁村を明るく住みよくするために」で

- 1、漁村を明るくした例
- 2、又明るくするために障害となっている点
- 3、では明るくするにはどうしたらよいか

に討議はしぼられました。全体を通じて之を、経済方面、家庭的な問題、社会的な問題と、三つに分けて経済方面では、貯蓄の奨励、共同購入に依る家庭経済の安定、家計簿の記帳、以上を履行し家庭的な面では、家庭の話し合いを行い又家庭内のリクレーションをもつこと、家族計画の実施によって漁村を明るくすべきである、又社会的な面では、封

建性を打破して害のある迷信を徐々になくすること、公明選挙の推進、共済保険の加入等がとり上げられました。

以上により十七日の三分科会は終りまして、翌十八日午前九時三〇分再び会場に集合、昨日の三分科会の協議事項を夫々発表がありました。活発な全体討議に移りました。活発な討議、質問が交されました。尙その際鹿兒島県の代表より、漁協組合の理事の選挙に婦人の選挙権も与えられる様連合会は努力して欲しいとの要望が出され、それについては是非も論じられましたが、全体討議の決議事項としては「漁協婦人部は組合の運営に積極的に参加出来る様努力しましょう。そして十月十七日を全国一律、皆貯金デーに致しましょう、の二項目が決議されました。

全体討議は午後二時を以って打きられ、二時よりはリクレーションに移り各県御自慢の民謡踊りが持出され、和やかな爆笑に時を忘れましたが午後五時より帝劇にシネマの観賞を致しました。

大会第三日目十九日は、早朝七時、漁連の御好意に依るバス三台を連ねまして「同千葉県鵜原の漁協婦人部を見学致しました。バスに乗る

こと五時間、房総半島をつつきりまして、鵜原に到着。鵜原婦人部長より活動状況を伺い尙部員による民謡踊りを二、三、見せて頂き僅か一時間程で又バスを連ねて帰りました。が、合せて十時間のバス乗りは、当日の収穫は扱って置き、少々と申上げたいけれど十二分にまいってしまいい、車中まことにおとなしく、午後八時宿舎に到着しました。

第四日目、最後の日は午前九時又借切りのバスにて宿舎を出発、東京麻布にある生活改善展の見学、此処は生活改善普及員の研修の場で現在二十名の研修生がいらっしやる由、尙御説明によりますと此の館の建立は十年来、先生方の御念願でありました由、国より三〇〇万円の補助を出して頂いたが修理費にも足らず、アメリカロックフェラーより二、〇〇〇万円、その他全国有志よりの寄付を受けて約三、〇〇〇万円の費用を以って最近出来上りましたもの由、その進んだ設備は、まことに感心させられました。又此処での研究の先生方、御苦労様とは存じましたが、我々生活にはまだまだ縁の遠い文化の道具の数々と嘆息して通り過ぎました。

以上私の報告でございますが、全

国大会に出席させて頂き大変よいお勉強をさせて頂いたと思っております。尙最後に全漁連の方々の何かにつけての御奉仕は本当に感謝致しました。又此の場を借りまして、同行して頂きました県水産課の西村様、信連の滝木様にはまことに一方ならぬ御世話を受けました事を御報告申上げ、御礼申上げたいと存じます。

御投稿お願い

皆様方の機関紙として発足しました「拓水」も各位の御協力によりまして本号で第二十七号の発行となりました。

現今沿岸漁業多難の時、あらゆる方面より皆様の御意見を発表していただきお互に参考にして難時打開の一端にでもなれば幸いです。御意見を御投稿下さいませ。ようお願ひ申上げます。

米国における生鮮

食料品の消費包装

森澤基吉

買い易く売りぬいたための
包装

最近十五カ年の間にアメリカの生鮮食料品界は重大な変化をとげた。

それは消費単位を基準にした包装技術の発達である。およそ商品と言われるものの中で我々が日々消費する生鮮食料品ほど品質の保全をその流通過程の中で神経質に考慮しなければならぬものはない。如何にして最も新鮮な状態の食品を消費者の食膳に安価に提供するか、如何にして産地から都市までの流通区間における品質、数量の低下とロスを防いで生産者の経営を確保するか、又如何にして増加する生産にに応じて鋭敏に消費を拡大するかの諸点が常に関係者の真剣にとり組まねばならない重要課題であることは洋の東西を問わない。

アメリカはその広大な国土を有するが故にこのなやみは特に深刻であった。主要な生鮮食料品の生産地である太平洋岸から代表的な消費地帯の多い大西洋岸までの距離は三千里を超え、急行列車で直送しても六日を要する。食料品の全米の平均輸送距離は千五百マイルにのぼるからその長大なること到底狭隘な我国の比ではない。然も寒冷地帯から暑熱の砂漠地帯まで各種の気候の目まぐるしい変化に堪えての生産物の輸送であるから保蔵と包装の技術が極めて高度に研究され、今日の素晴らしい発展を生んだことも当然のことと言い得よう。

消費包装は今や米国生鮮食料品界のトップ・モードである。生のままの産物が生産地や卸売市場に於て消費世帯の使用する重量単位にスマートに衛生的に包装出荷されることを

消費包装と呼ぶが、専門的には事前包装 (Pre Package) と言われている。一乃至五ポンド程度の使い易く買い易い単位に食料品を包装することが主として小売商人の手に商品が到底する段階以前に於て行われる。

米国の小売市場や店舗を見て歩いて我々が最も感心したことは野菜、果物、食肉から水産物にいたるまで我國のようなバラ売りが少く包装品が断然優勢でその販売のための展示が真に美しく見事になされていることであつた。最近著しく発達して来たスーパー・マーケットなどは各種消費包装の展示場とも言う可き壯観を呈して居る。使いごろの数量が美しい清潔な包装で自由に選択購入の出来ることは消費者にとって大きい魅力であると共にこの式の包装が流通の道程に於て品質の保全、歩減りの防止、輸送単位の単純化、小売のセルフサービス化に強力な効果をもたらしつつあることは生産者や取扱業者にとつても極めて重大な意義を持っている。消費包装は買い易く売り易いための包装であると言える所以である。

包装に使用される資材

最も早くから用いられたものはセ

ロファンである。内容物を需要者に見せうる利点によって各種のものが研究せられた。空気を充分に透過しうるものも出来た。最近では塩酸ゴムや高分子化合物の売れっ子ポリエチレンを匹頭とする化学フィルムが最高度に消費包装に使用されるようになった。又金属箔も普及している。消費者にとって購入しようとする食料品の銘柄、品質、容量、価格が一見して明かであるよう商品の標示を行うことは重要なことである。

消費包装に利用されるこれらの包装資材は内容物の種類によって如何なる大きさにも作製が容易であり且つ折詰や冷凍品の容器と同じく美麗な印刷が自由に出来る利点がある。で、米国における生鮮食料品の消費包装用のケーシングには政府の行った品質検査の等級、目方、価格、内容物の名称等が各種のデザインをこらして美しくプリントされているのが原則となつている。

各種の生鮮食料品について消費包装の概況をのべて見よう。

食肉類 (牛肉、豚肉、兎肉等)

小さいブロック或はひき肉をセロファン包装する。特にひき肉はソーセージのケーシングの如き大きい長円形のセロファン袋に自動的

に肉づめし小売店で必要量だけ袋と一緒羊かんを切るようにして切断販売する。

食肉加工品(ハム、ベーコン、ソーセージ等)

スライス(薄切り)したものの五枚程度をポリエチレンの小袋に包装する。食パン類もサンドウィッチやトースト用に切ったものを一食単位に包装してあるので、これにパンにはさんで簡易な食事が出来る。これは最近我国の食肉包装にも出現した。

鳥肉類(鶏肉、七面鳥肉等)

生産地の工場内で内臓を除去し脱毛した丸ままのものを塩酸ゴムの袋に特殊な装置で真空包装(袋の中の脱気を行う包装法)し更に凍結したもの。「プライオオ・バック」と称し特許方式である。

鶏 卵

品質検査を厳重に行った上、防腐用の或種の鮫物油を塗布して一ダースづつボール紙製の保護ケースに收容する。マヨネーズ向や菓子製造用のやや品質の劣るものは卵殻を割り卵黄、卵白のみを混合して大型の缶に收容、凍結して冷凍卵として出荷する外乾燥卵もある。

野 菜 類

種類によって異なるが洗滌し皮をとり不要部分を切りすて、食膳に供し易い状態にした五ポンド以下の重量のものをポリエチレン、セロファン袋に收容する。一種類の野菜のみでなく各種を細切りしたものやサラダ用として混合包装してあるのは便利である。通気のため袋に小さい穴をパンチする。

果 物 類

りんご、オレンジ、レモンを始め各種のものが一乃至五ポンド程度のポリエチレンや糸あみ製の袋に包装されている。乾燥果実や木の実類はボール箱や透明袋に收容する。

水 産 物

米国に於ては缶詰と冷凍品が圧倒的である。冷凍品はフイレーヤ料理用に半加工した魚やえびのフライ類が各種の美しいボール箱に金属箔を使用して一食単位に包装される。数量的には多くないが乾製品やくん製品は青果物と同じようにポリエチレン袋に包装する。冷凍品を除くと鮮魚類は特に消費包装されていない。これは消費の比重からみて必要がないからである。むき身の貝類は瓶詰めとす

る。

消費包装は何時行われるか

消費包装は主として生産地と卸売市場やスーパー・マーケットの集荷配給センターで実施される。生産地に於ては業種別協同組合の事業活動が極めて活発であつて組合員より集荷した生産物を選別、洗滌、加工、包装する自動式の近代工場を組合の共同施設として所有している。流れ作業の見事な工程できわめて衛生的に生鮮食料品が生産者自体の手によって消費単位に包装せられ、工場に駐在する政府検査官の等級格付検査をうけて輸送用の木箱或はパッキン・ケースに再包装の上冷蔵施設の完備した鉄道貨車や大型トラックによって消費市場へ出荷される。協同組合以外に産地における出荷業者による包装作業もあるが協同組合の比重がきわめて大きいのが特色である。

生産地より大口に出荷される青果物については消費地の需要に応じ卸売業者の手によって消費包装される。スーパー・マーケットの会社は卸売市場でその商品を集荷もするが、主力は自己の所有する機能で直接産地より荷をひくものが多く地域

的に数地方の支店へ配給を行う中心部としてのセンターを数多く全国的に持っている。このセンターに於て各地より集荷された生鮮食料品を貯蔵し加工すると共に、会社名と商標を美しく印刷した容器に消費包装を行い、自社のトラックで各店舗に配達している。

流通の段階における包装のコストは重大な問題であるがこれは常に不變のものでなく品種により又季節的に出荷者の取扱う数量によって変化するし、包装設備の相違、作業の能率の差等によつても一つの中の間で変つて行くので一率には律せられない。米国における生鮮食料品の消費者価格の中で生産者にもどる部分は約四〇パーセント、生産者と小売業者の取得する部分は平均合計六八パーセントで三二パーセントが輸送や包装や取扱に要する中間業者のマージンと解釈して良い。この中で消費包装の占める部分は決して安価なものではないが衛生的な品質の保存、消費者の利便という長所から見れば許容される可き限度のものである。

各流通過程における消費包装の長所と短所

この包装は長所を数多く持つが故

に合理的なアメリカの食生活に適應しつつ今日の隆盛を来したものであるが、一方短所もないわけではない。今その長短得失を比較検討して見よう。

一、原則的な長所

- (1) 同一の生産品から多くの分化された商品が出来る。
- (2) 商標の識別と広告宣伝が容易である。
- (3) 流通過程における商品の損傷を減少し得る。
- (4) 小売される以前に消費包装が行われる場合輸送や取扱の経費を節減できる。
- (5) 生鮮な商品を取扱う場合の危険性を或る程度除きうる。
- (6) 小売商の労力費を低下させる。
- (7) 消費者への販売量を増加させ且つ取引が迅速化される。
- (8) 商品の品質と生命を長くする。
- (9) 小売マージンの減少に役立つ。
- (10) セルフ・サービスの小売方式に適当している。
- (11) 小売店に於て清潔で綺麗で客の注意を引く展示が出来る。
- (12) 取扱がより経済的且つ便利である。
- (13) 消費者の台所サービスに役立つ。

(14) 冷凍品や缶詰に呼応しつつ生鮮食品の販路を維持しうる。

二、原則的な短所

- (1) 生産品のコストの中で消費包装の占めるコストが安くない。
 - (2) 流通過程で特殊な取扱法や冷蔵技術が必要となる。又新知識が要求される。
 - (3) 卸売業者、小売業者から旧来の方式の変化について抵抗がある。
 - (4) 流通上におけるマージンの弾力性がなくなる場合がある。
 - (5) すべての生鮮食料品について消費包装が適用出来ない。
 - (6) 余分のコストと特別な施設投資を必要とする。
- 以上が原則的な得失であるが流通の各部分にわたって更にその利とすする諸点を分析して見ると興味がある。
- 生産地（出荷地）における長所**
- (1) 消費者にわたる前に廃棄されてしまふ部分の重量や容積について余分な輸送費が節減できる。
 - (2) 出荷者の商標をつけて国中の消費者に宣伝が容易である。
 - (3) 生産者の手取りを多く出来る。
 - (4) 生産者や出荷者が消費者の要求することに詳しい知識を獲得しやすくなる。又市況に依じて生産や出

荷の調整がより高度に可能となる。

消費地の卸売市場における長所

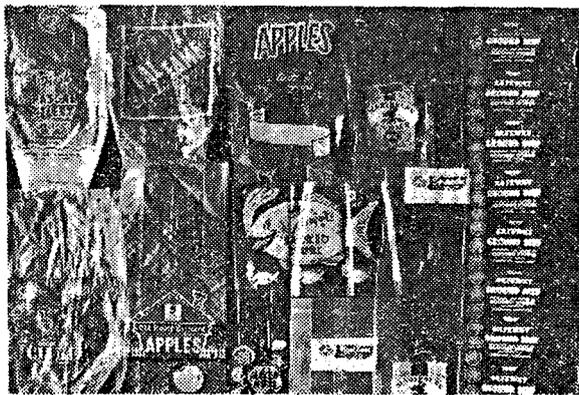
- (1) 多量の荷物についての荷さばきが非常に能率的となる。
- (2) 周年を通じ国内の各地から各種の荷を計画的に集荷しうる系列が確立される。

小売市場における長所

- (1) 商品の目方や外観や包装の形式等について御得意客へのサービスが向上する。又極めて衛生的である。
- (2) 店員が商品の内容について詳しい知識を持ち易く、従って客への説明が出来やすい。又商品の展示がし易い。
- (3) 売れ残った商品の品質の保持が容易である。
- (4) 販売のための労働力を売行きの一タに合わせて能率的に發揮しうる（一週間の中約七割の売上げは週末の三日間に集中する）

我国の場合はどうか

我国に於ても近時食生活の合理化と包装技術の進歩によって消費包装は一部の食品について高度に發達の兆を見せつつある。デパートの地下のフード・センタ



(各種の消費包装用ケージング) (右端の長いのはひき肉用のもの)

1をのぞいて見ると如何なる種類のものにもこの包装が活用されているかが一見して明かであるから詳述する必要はない。然し乍ら生産地における生産者の共同事業としての消費包装や宣伝はアメリカのそれに比べてまだまだ低調ではなからうか。加工業者やいわゆるメーカーの工場から出荷される特定の商品は消費単位に美しくネーム入りで包装されるようになったが出荷者としての農業協同組合や漁業協同組合がこの新しい動きに対してもっと積極的にあつて

良いのではないかと思われる。近時大中市に於ては郊外の新住宅地が住宅公団や電鉄会社等の手によって、どしどし開発されるのに呼応して日本独自の経営方式と設備をもつ近代的小売市場としてスーパー・マーケットが新に現出しつつある。この傾向が増大するに従い農漁民の手による消費地向包装商品の生産とその消費宣伝が当然活発化されることよって、中間の節約しう可き流通の不要マージンを切り落し消費者には安価に供給のサービスを確保しつつ生産者の手取りを一円でも多く

マダコの資源補充機構

マダコの増殖対策の前提として仮説を発表し、各位の御批判を請いたい。

水 試 川 越 敬 一

仮説を提示する理由

筆者は、本誌前月号でタコの資源研究が必要なこと、その方法として標識放流が効果的であることを述べた。しかし、おそらく読者が期待さ

することが考えられなければならないであろう。特に不況にあえぐ沿岸漁業にあっては多獲魚の多角加工とこの種包装の研究実施によって大衆品の商品性をたかめ且つ漁村の潜在労働力をフルに稼働せしめて漁民の収益を増加しうる余地がまだまだ多いことに盲目であってはならない。相当多種類の水産製品の消費包装が市場に進出しつつある現在、漁村の指導者は今一段と加工と流通と包装の重要性について目をひらくと共にその技術について真剣に研究の必要がある。

れたような本年の不漁の原因についてはなら触れなかった。触れることができないのである。だが、今日の問題に目を閉じて、明日の計画を議論しても始まらない。

研究の未熟と対策の緊急性——そ

れは試験研究にたずさわる者が、しばしば味わうハガユサである。と同時にまた事業に当る人々の「試験場のむにたらず」の軽侮の念の因となる。筆者はとにかく仮説であろうとも、試験場の考え——あるいは全員一致でなくとも、何らかの解釈だけでも発表するだけでも、業界の参考になるのではないか。よし、そこに多くの反論があってもよい討論のなかに真実への道が開られるかもしれない——こう考えて、ここにひとつの仮説を提示する。この仮説は若干の観察にもとずくとはいえず、科学的な検証を経たものでない。普通なら研究室内での提案ぐらゐの段階なのである。読者は、本稿があくまで仮説であることを充分承知されたい。もしこの仮説が事実をよく説明するならば、さいわいと思う。

基礎とする観察

1、マダコは、エサが充分にあり、環境に恵まれるならば、魚類にくらべてはなほだすみやかに成長する。試験場で小規模に行った標識放流によると、約三七〇グラムのマダコが、約四十五日間に一三〇〇グラムに成長していた例がある。
2、タコの産卵は、秋口に最も多

い。成長のよい個体はかなりはやく地方によっては晩春のころに産卵がみられることもあるけれども、本県においては八月下旬から九月上中旬にかけてもっとも多く見られる。

3、漁場によってマダコの大きさに違いがある。小ダコのいるところにはつねに小ダコがおり、中ダコの漁場にはつねに中ダコが、大ダコの漁場にはつねに大ダコがいる。つまりタコはその大きさによって住みわけをしていく。

4、マダコは、孤独な動物で群衆性がない。彼は一尾一尾が一城の主で、たとえ雌雄といえども一家(?)をともしない。一尾一尾が領域(エリア)を占領し、他のタコの侵入を許さない。そして最も強いタコが一番よい領域を占める。タコの社会は、強い者勝ちの階級制度である。

5、マダコは、卵からかえった稚な時期(稚仔期)は、泳游力が弱くプランクトン生活をするが、やがて底棲となる。小ダコ期は、なお多くの害敵があるが、成長に伴ない、次第に強さを増し、大ダコとなると、ウツボの他は強敵がない。そして瀬戸内海にはウツボは甚だ少ない。結局大ダコの最大の敵は、人間である。

資源の補充

水産資源は、鉱物資源と異って自己増殖をする。人間が漁業によって資源の一部を取除いても自己増殖によって回復する。その自己増殖には二つの要素がある——個体の成長と個体数の増加である。この二つの要素が、時間的に場所的にどう組みあわされて資源の回復が行れるかということが、資源の補充であり、その仕組を補充機構というのである。

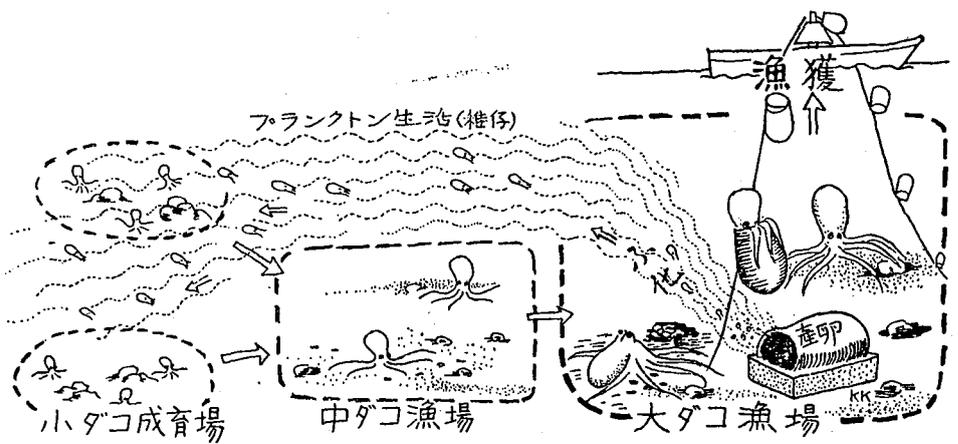
資源の補充機構を研究することは非常に有用である。それによって、われわれはいかなる人工的措施によって資源の補充を促進することができ、その方法を知らなければならない。補充機構の隘路を知ることによって、不漁の原因を取除き、平年漁獲高を上げることができ、マダコの場合でいえば、現在行っている増殖策——産卵つぼ投入が補充機構のなかでどんな役割を果しているか、その効果とはどういう意味なのかを立証することができ、また産卵つぼの投入のほかに、増殖対策として効果的な何らかの方法を発見することができるかもしれない。そうすればタコの漁業はもっと安定した経営を行うことができるであろう。

しかし残念ながらわれわれはまだマダコ資源の補充機構に関する正確な知識をもちあわせない。さればこそ、その仮説を立てて批判を仰ごうとするのである。

マダコの一生

十月、母ダコが長い間つきそって水流を送ってくれたおかげでマダコの稚仔たちは次々と卵塊からぬけだして彼の苦難に富む人生(?)の一步を踏みだす。彼らの兄弟は、十萬を越すであろうけれども、そのうち無事に成長し、恋をし、卵を生んで、次の世代に後継者を残すことができる幸運者は、おそらく十万分の一以下であろう。いってみれば、兵庫県に毎年生れる赤ん坊が兵庫県知事になるほどの可能性くらいしかないのである。なぜならマダコの人口はほぼ均衡状態にあり、余程の好条件にめぐまれないかぎり極端な増加は考えられず、一塊の卵塊から雌雄二尾が成熟する割合と考えられるからである。(一三〇〇グラムの親ダコの抱卵数が約十七万粒であることが観察されている)

それはとにかく、稚仔たちの運命を追うとしよう。彼らのプランクトン生活の長さはわかっていない。潮



流のままに流れるうちに、運よく適当な環境に流れついた稚仔は、底棲生活に入り、小ダコとなる。小ダコから中ダコへ、中ダコから大ダコへと成長しつつ、その住み家を変え

てゆく。こう書けば何の曲もない。成長と共に住み家を変える動物は他にも多いからである。マダコの場合には、少しく事情が異なるように思われる。彼らは大きくなるから住み家が変わるのではなくて、住み家が変わるから、適当な条件を得て急速に大きくなるのだと考えたのだ。

小ダコは、ようやく底棲生活に入ることができたけれども、そこはすでに人口過剰である。タコの頭かずにくらべて食物が少ない。ようやく生命をつなぐだけでなかなか大きくなれない。すぐ近くにもっと食物の多い、住き心地のよい場所があるけれども、そこは中ダコ階級が占領していて、何かの都合で中ダコの数が減らないと小ダコは割込めない。そこへ割込む幸運を得た小ダコは、豊富な食物によって急速に中ダコに成長する。

頭うちの苦痛は、中ダコにとっても同じである。小ダコにくらべれば豊富な食物でも、大ダコに成長できるほどには充分ではない。人口飽和のために彼らはもはや大きくなれない。もっと条件のよい場所は、大ダコ階級に占領されていて、割込むことができない。食物の不足のために、生殖腺が熟しないので、彼らは

いつまでも、少年・少女である。

大ダコの数が減ると(漁獲によって毎日減少する。)中ダコの一部が大ダコ漁場へ移りさらに成長し、急速に成熟する。やがで生殖腺の熟するとともに、恋を語り、母となった彼女は、卵を生み、それをかえす場所を探す。適当な産室は、母だこの数ほど多くはない。すでに卵を生んだ産室には母ダコがつきそっていて絶えず水を送っている。生み場探し求める若い母ダコが近づく、それらの先着組は、はげしい怒りをみせて追い払う。もし適当なところがないければ、間にあわせの産室でまんなしなればならないが、そんなところは浮泥が多く、新鮮な水が少なく害敵も多いであろう。

しかし、彼女らの苦勞は二十年ほど前にくらべると余程軽くなっているはずである。人間がなげこむ付付タコつぼが彼女らに安全な産室を提供するからである。

タコの悲劇

産室の奪いあいというあわれな苦勞が減ったのはめでたい。そのためにも化中途の卵が窒息することは相当減少したであろう。毎年一百万個の産卵つぼが投入されているから、前

年度までの残存効果五千個があると見て、一万五千個の産卵場所が人工的につくられているわけである。ここで生れる稚仔は少くとも十五億、おそらくは二十億以上であろう。もちろんこれは産卵用つぼだけのもので、天然の岩の間などを利用する産卵でどれほどの稚仔が生れるか見当のつけようもない。もしこの稚仔が全部親(平均一キログラム)になつたとすれば、総数二百万トン、兵庫県の全水揚高(約八万トン)の二十五倍という莫大なる数字になる。それがそうならないのは、タコの一生を通じての悲劇の連続による。

稚ダコは、魚類の好餌であろう。また潮のまにまに流されてなかなか好ましい場所へ着けないものもある。無事に小ダコの成育場に到着できるものは稚仔の何分の一であろうか。

小ダコとなつても、経験(実験によれば、マダコは無脊椎動物としてはかなり高い学習能力がある)に浅い彼らは身に迫る危険を逃れることができないかもしれない。幼ないながらに仲間と食物を争わなければならず、その争いに敗れたなら、飢えに苦しむであろう。なかでも冬の寒波はおそろべき死の手であろう。彼

らの住み家は浅く、寒気は痛烈にしみわたるであろうから。

中ダコ期以後のタコの危険についてはよく知られている。重量にして年間三千トンから四千五百トンのマダコが漁獲される。もしこの漁獲を制限したならばどうなるだろうか。果して資源の増加が期待できるであろうか。

マダコの漁獲制限

筆者のマダコ資源の補充機構の仮説によれば、中ダコ以上漁獲制限を行つてもさして資源量は増大しないであろう。

マダコの食性、増肉率(餌を食べた量と成長のわりあい)、動物社会的な研究などの資料が乏しいので、はっきりしたことは断言できないのだが(だからこそ仮説なのだ)、マダコの社会では、食糧事情が非常に悪いと考えたい。人間が産卵つぼの投入によって稚仔の生産を増加したので、近年はとくにこの傾向が強いのでなからうか。

したがって大ダコの漁獲を制限すると、タコ同志の生存競争(食物争奪)が激しくなり、大きく強いタコはますます大きくなり、ボス化するであろうが、このボスダコが餌を

独占する結果、タコの個体数は減少するのではないかと思うのである。

個体数の減少と一尾当りの重量の増加という相反する要素の総和が漁獲制限の効果であるから、大きな犠牲をはらって大ダコの漁獲制限を実施しても、その犠牲に引合うだけの水揚増加が将来に期待できるか、疑問である。(全く資源が増えないという意味ではない。)

カギは小ダコに?

三十二年漁期は、後半から漁獲が減少した。三十三年はときにデキゾ(中ダコ初期)が出現するが、全体として漁獲が少ない。

漁期後半に漁獲が減少するのは、小ダコ群の数がなんらかの原因で平年より少なく、そのために春を迎えて餌が豊富になると一せいに成長する。よって漁期のはじめころは、中ダコが非常に多くとれる。しかしこの中ダコを漁獲しつくすと、後続の小ダコ群が少ないので資源の補充がきかなくなるのだ、と解釈したらどうだろ。

三十三年漁期ははじめから不漁というのは、三十二年における小ダコの不足が引続き存在し、その傾向が

強まっているので漁期のはじめから補充がきかないのではなからうか。小ダゴの不足の原因は底曳網などもあるかもしれないが、小ダゴ養成場の自然的原因を重く見たい。三十二年初期から小ダゴ養成場になんらかの変化が生じ、小ダゴの収容能力が激減したと考えると、話のつじつまがあうように思う。

- 1、餌料生物の不足
- 2、害敵の増加
- 3、寒波による凍死

4、工場廃水・都市廃水の影響などが考えられる。このうち、寒波については、この二、三年経験がないし、4については一部にはあっても、本年のような全面的不漁の原因とは考えられないであろう。

結局、想像にまつとしても手がかりになる事実をつかんでいないので何ともいえない。しかしここに案外見過ごされているのが、エサの関係である。漁業者の話によると、小ダゴの多い場所には、アサリなどの二枚貝のこまかいものが多いという。二枚貝を食うものには、カレイ・コチなどの底魚のほかにヒトデ・カンパン・タコノマクラなどの棘皮動物

物、ツメタガイ(淡路方言スベタ)キシヤゴ・アカニシなどの食肉性の巻貝があり、タコにとって重大な競争相手であることに注意したい。人間はタコを捕り、ヒトデなどを捕らないから、漁業者がふえるほどヒトデなどが増える。すでに明石附近では、底曳漁獲物の七、八割までがこれらの役に立たない底棲動物の漁場があるとき。

小ダゴはまば体力がなく、防禦力が低くから多くの魚のエサになるであろう。しかし近年底魚の大量発生や回游を耳にしないが、あるいはそんな事実があるかもしれない。エソ・コチ・アナゴ・ハモ・カレイなどの大発生が、小ダゴの減少をまねくおそれが、一方で漁獲の増加となることであるので、水産界全体としては必ずしも悪いことではあるまい。

第二の増殖保護

産卵用たこつば投入によって、マダゴの稚仔の生産増加に成功しているが、それ以上の保護をわれわれが講じていないところに現在のマダゴ漁業の不安定な原因があるのでなかろうか。

これは人間にたとえれば妊婦保護や乳幼児の保健事業は盛にやるが、

小学生以上をほったらかしているようなものである。

産卵用たこつばに次ぐ第二の増殖保護は、小ダゴに置くのが適当だといふのが、この仮説からみちびかれる結論である。

仮説であるから、実証が必要である。そして実証の過程において、具体的な技術——「どうすれば小ダゴを保護できるか」が明らかにされるこ

とと思う。

(附言)

本稿を某氏に見せたら、産卵用たこつばの投入に効果あまりないといっているように受取られた。筆者の意図はもちろんそうでない。その効果は認めつつ、さらにその上に加える第二の対策を探するための、仮説を出しているのである。

冷却水温度について 冬をむかえるエンジンの手入れ

かなり以前のことになるが、淡路の某漁業者のKさんから、

「うちのディーゼルが、どうも調子が悪いので、一ペン見てもらえんやろか。」

という依頼があった。そこで水試のI技術員が、現地へ出張診断の結果、Kさんのいい分は、大体つぎのようなものであった。

「わしの漁船は、某ディーゼルの六馬力を据付けて延縄漁業をやっていますねんやが、別にオーバ―でまわすわけなし、いつも

スローですわ。それにまだ買うて三カ月しかならんのに、もうボーリングせなスイてスイてまわりよれへん。高い金出して無理して据付けたディーゼルが、この調子やったらホンマにかないまへん。これは一体どんなわけですしやろ。——それに水の温度ですけどな、あんまりチビるのが早いよって、水が温もりすぎてるとせいと違つか思うて触ってみたら、冷うてええ調子ですわ。エンジンはスローでまわ

すわ、水は冷いわ、何にも悪い条件あらしまへんやろ。？
まあ取扱が悪うてこんなんやったら、いうわても諦めまっけどな。アンマリひどすぎますわ。

成程一寸考えてみると、エンジンはスローで廻すし、冷却水温度が低いということは、エンジンに好都合のように思われるが、シリンダーの摩耗状態を考えてみると、このKさんのいい分は全く逆な考え方といえるのである。だからKさんが、スローで廻して、水が冷たければよいと思っていると、トンだ間違で、逆にドンドンシリンダーの摩耗を早めていくような結果になり、「親心子知らず」ではなしに、「子心親知らず」ということになってしまう。

でわ一体シリンダーの摩耗を防ぐには、どうすればよいのだろうか。先ずスロー運転であるが、これはKさんのような場合だけでなく、漁業によって、スロー運転でなければならぬ種類も多く、そうでなくとも絶えずスピードで廻すわけにもいかないから、ただスロー運転はシリンダーの摩耗を早めるということを中心がけておいてほしい。

それよりここでシリンダーの摩耗を考える前に、もう一度その原因をあげてみると、

- 1、連続的なオーバーロード運転
- 2、潤滑油の不良
- 3、燃料の不完全燃焼
- 4、スロー運転
- 5、過冷却

等がその主なものであるが、このうち今話したスロー運転の場合は仕方ないとして、他の四つについては、取扱如何によって、いくらでも調整し、効率をあげることができから、色々工夫することが必要だ。この一つ一つについて詳細に探究していくことは後日にゆずるとして、ここでは過冷却と、それに切っても切り離せない燃料の不完全燃焼を中心として、シリンダーに対する影響の概略を記そう。

一般に燃焼の悪い負荷状態で長時間使用し、その上冷却水温度が低いというのは、シリンダー摩耗に最も悪い。何故ならば、このような運転を続けていくことは、燃焼が益々悪くなり、燃料の不完全燃焼による生成物のために、この生成物がシリンダーとピストンの間にあって摩擦されたり、又シリンダーが腐蝕されたりして、そのために摩耗が激しくなるのである。冷却水温度が低いというのは、完全燃焼を阻害するばかり

でなく、もっとも悪いのは、気化された燃料中の硫黄分が、いものの最大の敵である硫酸に変化し、腐蝕を早めることである。しかし水の温度を上げるといっても無暗矢たらに上げることはできない。機械各摩擦部分の膨脹係数を考えて、使用している潤滑油が有効にはたき得る、つまり熱に耐え得る限度にとめなければならぬ。最近某ディーゼルメーカカーのテストによると、シリンダーカバーの出口で摂氏五十五度位が最も適当ではないかということである。前記の潤滑油の使用限度を考えると、もっと高ければ高い程効果的だといえよう。現に陸上のバス等で軽油ディーゼルでは、八十度位にまで調整し(サーモスタッドによって)自動的に燃費やボーリングの費用の節減をはかっている。漁船の場合、大体回転数が低いし、又ナマの海水でドンドン冷すわけであるからそれ程温度をあげることが中々むづかしいが、それはそれだけに温度の調整法が研究されてよいと思われる。たとえば、現在のエンジンでは、サイレンサーを通った水は、そのまま舷外に排出されているが、このぬくもった水を、もう一度吸込側の方へまわして、新しい温度

の低い水とミックスして循環さすようにすれば、入口ですでに温度の高い水が循環することになる。冷却水温度の加減にはキングストーンコックの開閉による水量の増減でも調整できるが、漁船の場合、このコックは常に全開放のままであり、実際効果はうすいので、余りすすめられない。その点、サイレンサーから排出された高温の還流水を、温度計をみながら調節する方法が、もっともよいと思われる。冷却水温度が高いと、シリンダーの摩耗は減少し、又燃料の完全燃焼にも効果があつて燃費の節減にも大いに役立つ。しかし一般の小型漁船では、冷却水温度が低いのが普通で四十度内外で運転されているのが大部分である。だから水の温度が高い方がよいといっても実際はむづかしいのが本当だ。講習会の席上でも、右のような話をする

上げることは困難なことであるから、そう神経質になることはないが、できればそうした方がよいというものである。ただし電着エンジンなどでは、常にシリンドラーが過熱状態になり易く、ノッキングが頭痛の種になっているので、この場合には冷却水温度を高めるならば、ますます過熱し故障のもとになる。

何れにしても、一長一短はあるが、常識として、シリンドラー摩擦には冷却水温度が大きく影響すること。しかもそれは高い方が効果的だということをお忘れないうでほしい。前からディーゼルメーター等では、この問題に着眼し、冷却水の還流装置の設計がすすめられているから、近い将来には、小型機関にも工夫される運びとなるだろう。

前にも一寸書いたが、エンジン取扱者としては、まず第一に「完全燃焼」ということをモットーとして取扱ってあげば、単にシリンドラーの摩擦だけではなくすべての条件にマッチして経済運転の実をあげることができるであらう。(兵水試・杉本)

X
X
X
X
X

漁民厚生共済について

全水共 兵庫県事務所

十月号に漁業共済事業の概要について書かしてもらいましたが、この事業と共に全水共では漁業者のための厚生共済事業を実施しています。これは農協で行っている生命共済と同じ性質のものでありまして、漁業者の生活の安定を護るための生命保険であって、漁業者やその家族の方々が加入されるの一番ふさわしい形態を具へているものであります。御承知のように、漁業は自然を相手とする産業であり、狂暴な天災は絶えず漁業者の生命を脅しています。が、不思議に漁業者の生命保険利用者は少いのです。海難による遭難がある度に生命保険の必要が叫ばれながらいつの間にか、その熱意は冷めていき、再び犠牲を出して多くの家族が路頭に迷うという惨事を繰返しています。このように漁業者の生命保険利用率が低いことが、益々漁村を貧困に陥す理由の一つになっていくことに充分想いを致

さねばならないと思います。このように漁業者の生命保険の利用率の低いことについては、種々の理由に基づくものであって、これらの理由を考慮に入れて、漁業協同組合の、系統組織を活用して実施するという、仕組の生命保険です。さてそこで、どのような考慮が払われているか主な特長について述べてみたいと思えます。

◎厚生共済の掛金は安い

厚生共済の掛金を民間会社の保険料と直接比較することは、制度の立前が違うので困難であるが、厚生共済は、漁業者の実質的負担が最も安くてすみ、しかも一番給付の有利な線をねらって成案されています。またこの共済は組合系統組織を通じて実施するものであって、事務処理方法も相当簡素化されているため、事務費が圧倒的に軽減できるので、この面における負担の軽減は大へん

大きいのであります。

◎漁業者にふさわしくできている

この事業の主体は前にも書いたように漁業者の構成する各単位漁協が相寄って組織している全水共であり、実施方法は漁民全般の立場にたつて最も有利で、確實簡便な方法をとっており、あらゆる点から漁業者本位の制度として構想されているものであって、特に生命保険に較べて特長となる点は左のようです。

- 1 制度が非常に簡素化されており理解し易い上に、加入手続が簡易であり親しみやすくなっている。
- 2 掛金の額が年令の区別なく一定していて団体加入し易い掛金は月当り三〇〇円と二〇〇円の二種類である。
- 3 自由満期制で、満期を自由に選択できるようにしているのが気楽に加入することができる。
- 4 普通一般死亡に比して遭難死亡についての給付を特に高くしている。
- 5 保険的部分と、貯蓄的部分の調和について負担の軽減を考へ

特別の措置が講じられている。
 6 その他他協同組合の共済事業としての特長を数々具えており、すべての利益は挙げて組合員に還元される。

◎給付金が多い

給付についてはなるべく有利なように成案されているものであつて、次のような種々の形で給付されることとなっている。

- 1 災難死亡共済金は一口当り 一〇万円
- 2 病氣死亡共済金は一口当り 七万円
- 3 満期共済金は積立金の金額
- 4 解約返戻金(五年未満のとき)も積立金に近い
- 5 不具見舞金がある。
- 6 決算剰余金の割戻金がある。
- 7 止めたとき掛金の前納分があれば、返して貰える。

◎税金の恩典がある

- 1 支払った掛金は所得控除となる(年額最高二二、五〇〇円)
- 2 貯蓄控除が受けられる(前記以外の掛金について)
- 3 貰った共済金は相続税の非課税財産となる。

大要以上であります。詳細な内容については、漁業協同組合や関係の向に解説書を配布してあるのでここでは省略します。

極めて便利で、しかも有利に仕組まれているこの共済によって漁業者並びにその家族の方々が自己を防衛して安心した豊かな生活が送られると共に、一面この掛金蓄積分が漁業資金として還元使用されるようになるので漁業振興上にも大きな働きをすることになるものであつて、こうしたことがこの共済の目的となっているものであります。

漁業生産面については漁業共済で、働く漁業者の体は厚生共済で、そして漁業の施設と漁家を漁船保険と火災共済で完全に護り通して、平和で豊かな漁村にしたいものです。

共済申込状況

一 漁業共済

余部漁協	定置	漁獲	一件
南淡	漁具	漁獲	一件
釜口	旋網	漁獲	一件

二 厚生共済

内海漁連	甲組	二件	一〇口
兵庫漁協	〃	一件	三口
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	乙組	一件	二口
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	甲組	三件	七口

漁 調 委 だ よ り

◇はまちまき刺網漁業許可等審議

但馬海区委員会

但馬海区委員会では、十月二十日午前十時から香住町日水研支所で第九十四回の委員会を開き、次のことを審議した。

一、はまちまき刺網漁業の許可について

柴山港組合員十六名(代表今西一栄)及び三尾組合員二十五名(代表小西富造)の共同経営によるはまちまき刺網漁業の許可について審議したが操業期間を三月一日から十一月三十日まで、操業区域は当分の間、当該組合の地先海面のみとして許可することになった。

二、改良棒受網漁業の調整について
 この漁業は、小型棒受網を改良したもので現在、香住で六統操業

し、漁獲成績も良好で沿岸漁業に大きな朗報をもたらしているが、今後の調整方法について審議した結果、統数は制限しないが漁船、操業区域、期間を次の要領で調整する方針を決定し、県に意見具申することになった。

漁業の名称	浮敷網漁業
使用漁船	網船は十屯未満とする

操業区域	但馬海区一円
操業期間	四月一日から十一月三十日まで
火光設備	県漁業調整規則規定の範囲内

◇播磨海区の桁網操業期間の調整等

摂播海区委員会

摂津播磨海区委員会では、十月四日午前十時三十分から姫路労働会館で第二十八回の委員会を開き、次の

ことを審議した。

一、のりひび建養殖の漁場計画について

継続審議中であつた明石市魚住地先九件の漁場計画について公聴会を開き、関係者の意見を聞いたが原案どおりで差支えない旨、県へ答申することになった。

二、播磨海区の桁網漁業の操業期間について

継続審議中の播磨海区における

小型底びき網漁業手操第三種漁業

(桁網)の操業期間は、十一月一日から翌年四月十五日までとすることに意見が一致し、長い間懸案となつていたこの調整問題も円満解決をみた。

三、その他、昭和三十三年度魚礁設置事業で神戸市須磨地先の魚巢沈設場所が未決定となつていたが、当初計画を変更して設置することに決つた。(水産課調整係)

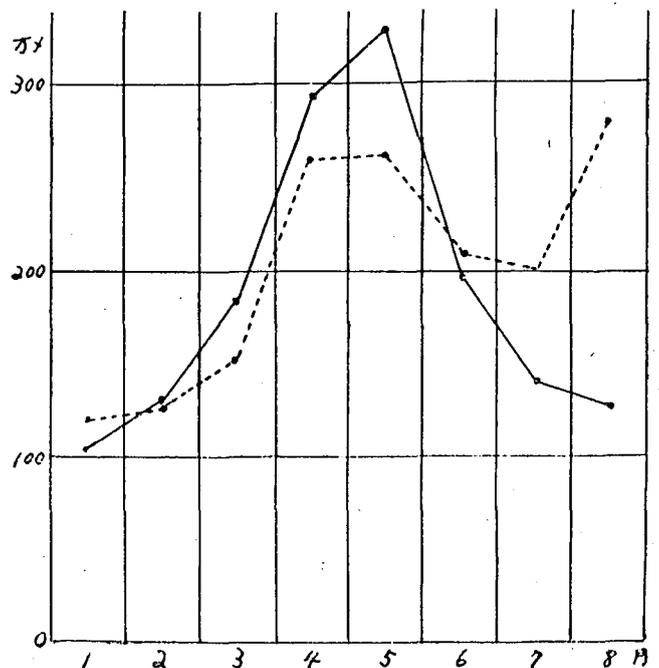
昭和三十三年八月中的海面漁獲の概要

八月中の総漁獲量は一、四一八千貫(五、三二七屯)で前年同期(二、八一八千貫)の約半分の漁獲であり、過去五カ年(昭二八〜昭三二年)同期の七〇%の漁獲である。

これは、内海におけるイワシ巾着網並びに船びき網漁業による夏イワシの漁獲が少なかったことと、タコ

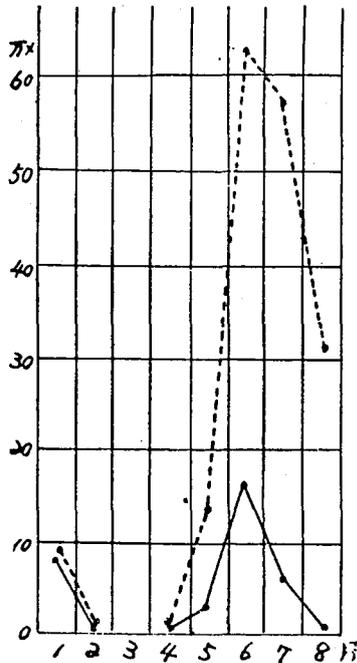
壺、一本釣漁業等によるタコ漁の不振、日本海におけるスルメイカの不振のためで、特に注目すべき点は、日本海におけるスルメイカで、漁期に入つてずつと悪く、今月も昨年同期の一・二%、過去五カ年同期平均(二六六千貫)の一・四%の漁獲に過ぎない。(水産課調整係)

県下総漁獲量



日本海

スルメイカ

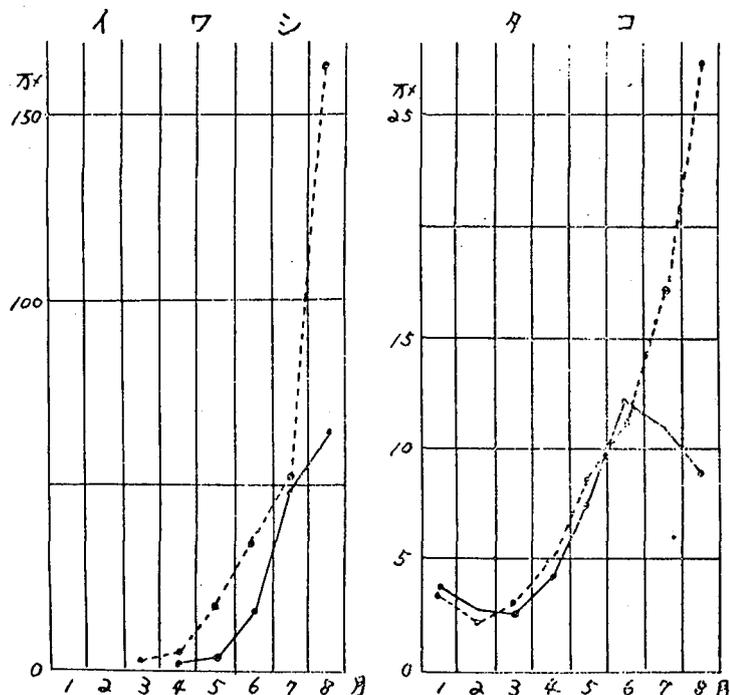
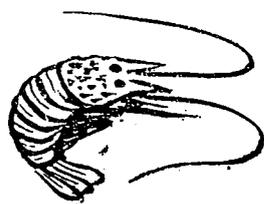


昭和33年8月中の海面漁獲量

単位千貫()内トン

海区年度 魚種	県 総 計				瀬 戸 内 海				日 本 海				
	33年	32年	増減量	率	33年	32年	増減量	率	33年	32年	増減量	率	
総 計	1,417.8 (5,317)	2,817.9 (10,567)	△ 1,400.1 (5,250)	50	1,196.1 (4,485)	2,329.3 (8,735)	△ 1,133.2 (4,250)	51	221.7 (831)	488.6 (1,832)	△ 266.9 (1,001)	45	
魚 類	イ ワ シ	819.6	1,782.0	△ 962.4	46	645.7	1,661.9	△ 1,016.2	39	173.9	120.1	53.8	145
	イ カ ナ ゴ												
	タ ラ												
	カレイ・ヒラメ	7.1	7.9	△ 0.8	90	7.1	7.9	△ 0.8	90	0	0		
	タ イ	8.5	8.0	0.5	106	7.6	6.5	1.1	117	0.9	1.5	△ 0.6	60
	サ バ	1.5	2.5	△ 1.0	60	0.8	1.3	△ 0.5	62	0.7	1.2	0.5	58
	ア シ	73.5	115.5	△ 42.0	64	64.7	86.1	△ 21.4	75	8.8	29.4	△ 20.6	30
	サ ワ ラ	1.9	1.9		100	1.9	1.9		100	0	0		
	ブリ・ハマチ	3.2	9.6	△ 6.4	33	2.8	5.8	△ 3.0	48	0.5	3.8	△ 3.3	13
	ボ ラ	6.7	4.5	2.2	149	6.7	4.5	2.2	149	0	0		
	ハ モ	15.6	15.0	0.6	104	15.6	15.0	0.6	104	0	0		
	ア ナ ゴ	11.9	7.8	4.1	153	11.9	7.8	4.1	153	0	0		
	シ イ ラ	16.7	9.6	7.1	174	4.2	1.2	3.0	350	12.6	8.4	4.2	150
	サ メ	2.6	1.2	1.4	217	2.6	1.1	1.5	236	0	0.1	0.1	
	ハ タ ハ タ												
ニ ギ ス													
その他の魚類	161.6	119.4	42.2	135	150.8	113.5	37.3	133	10.7	5.9	4.8	181	
(魚類計)	1,130.5 (4,239)	2,084.9 (7,818)	△ 954.4 (3,579)	54	922.4 (3,459)	1,914.4 (7,179)	△ 992.0 (3,720)	48	208.1 (780)	170.5 (639)	37.6 (141)	122	
その他の水産動物	スルメイカ	3.6	310.4	△ 306.8	1					3.6	310.4	△ 306.8	1
	その他のイカ	21.1	6.3	14.8	335	14.3	4.0	10.3	358	6.8	2.3	4.5	30
	タ コ	91.2	271.5	△ 180.3	34	90.2	269.8	△ 129.6	33	0.9	1.7	△ 0.8	53
	エ ビ	103.5	93.0	10.5	111	103.5	93.0	10.5	111	0	0		
	カ ニ	36.0	29.1	6.9	124	36.0	29.1	6.9	124				
	ナ マ コ												
その他の水産動物	0.1	0	0.1		0.1	0	0.1						
(水産動物計)	255.6	710.4	△ 454.8	36	244.2	396.0	△ 151.8	62	11.4	314.4	△ 303.0	4	
貝藻類	貝 類	30.6	19.8	10.8	155	29.3	18.9	10.4	155	1.3	0.9	0.4	144
	藻 類	1.1	2.8	△ 1.7	56	0.1	0.1		100	1.0	2.7	△ 1.7	57

(注) △は減。 ○は漁獲量50貫未満 (漁獲量50貫以上は100貫に切上げ)



内 海